

町の歴史ロマンを感じる 埋蔵文化財速報展

シリーズ
行ってみよう
(番外編1)

中央公民館では現在、最近5年間の町内発掘調査によって出土した遺物とパネルが展示されています。今回紹介するのは、平成27年度に調査を終えたばかりの南日詰大銀Ⅱ遺跡で見つかった埋蔵文化財。奥州藤原氏ゆかりの比爪氏が住んでいたといわれる五郎沼周辺の比爪館遺跡との関連性が分かりました。



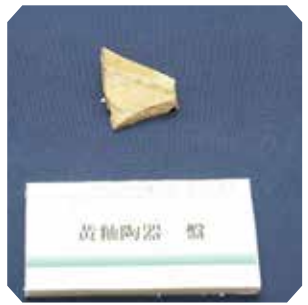
「秋の芸術祭まで展示していますので、ぜひ多くの人に見てもらいたいです。親子で一緒に見て、色々なことを話してほしいですね」と話す町文化財専門調査員の鈴木賢治さん(中央公民館の展示室にて)



大銀Ⅱ遺跡のポイントと解説

①東北では柳之御所遺跡(平泉)からしか確認されていない「幅60cmの厚さの塀跡」が見つかった

現場の空撮写真(合成。横に延びているのが塀跡。奥州藤原氏ゆかりの比爪館遺跡で見つかった塀跡よりも厚く、強固な壁であったと考えられます。もしかすると、この周辺を取り仕切る領主のような人が住んでいたのかもしれない。



平泉でも数点しか出土していない珍しい陶器であり、平泉との関連性を強く感じさせるものです。

④「中国産黄釉陶器」が発見された

「底」とは、家の周囲の廊下のことで、面が多いほど格式が高いと考えられています。五郎沼周辺の比爪館遺跡からも同様の居住建物跡が出土しているため、この周辺にも比爪一族が住んでいたのではな

③「三面底掘立柱建物跡(四面底の可能性有り)がある



かわらけは、専門の職人によって作られるもので、儀式や祭事などに使われていたといわれています。また、国産陶磁器は、当時は愛知が主な生産地であり、中国産陶器とともに輸送に大金が必要な高価なものでした。

②「平泉3点セット」と呼ばれるかわらけ・国産陶器・中国産陶磁器が出土

企画展示は、午前9時から午後9時まで自由に見ることができます。また、平成28年度は大銀Ⅱ遺跡の東側の調査が行われる予定です。
【問合せ】生涯学習課 ☎672-2111 内線3121

【まとめ】今回の調査により、比爪館と同様の遺物が出土したことから、比爪館関連遺跡の東端がより北上川付近まで広がっていることが分かりました。